

令和8年度 朝日小学校 前期学校評価結果・分析・改善策

		上段：教員 中段：児童 下段：保護者	A+B	A	B	C	D	分析	今後の各分掌で話し合われた一点突破重点取組・方策
1	集団生活	子供たちは、学校で楽しく過ごしている。	100	46.7	53.3	0	0	○児童のABの評価が、昨年度90.9%から93.7%と2.8ポイント上がっている。 ○保護者のABの回答が、昨年度92.4%から93.4%と1ポイント上がっている。 ▲学校が楽しくないと感じている児童が、7.3%近くいるため、個別に気かけるとともに、継続して関わり一人一人の思いに寄り添っていく必要がある。	
		学校は楽しい。	93.7	59.3	34.4	4.5	1.8		
		お子さんは、学校は楽しいと思っている。	93.4	50.9	42.5	5.7	0.9		
2	カリマネ	子供たちが、課題解決に向け、自ら考え行動できるよう指導している。	100	73.3	26.7	0	0	○児童のAB評価が85.7%から92.3%と6.6ポイント大幅に上昇し、だいたいの児童がどの学習に対しても主体的に取り組むことができているといえる。 ○昨年度87.4%から87.7%と同様の評価となっているが、保護者も概ね主体的に学習に取り組めていると考えている。 ▲7.7%の児童が自分から進んで考え、取り組むことができていると回答しているため、さらなる授業改善や児童との面談を通して原因を探っていく必要がある。	・今後も学校全体で、カリマネの柱「自ら考え、行動できる子」にするためには、どのような取組を具体的にやっていけばよいか、運営会議で話し合い、各分掌が子供主体で企画・運営できる方策を提案していく。取組後は必ず教員も児童も振り返りを行い、次の改善策を考えていく。保護者にもカリマネの柱についての理解をお便りを通じて発信していく。
		どの学習も自分から進んで考えたり、取り組んだりしている。	92.3	40.9	51.4	5.9	1.8		
		お子さんは、自分から考え行動する力が身についている。	87.7	27.6	60.1	11.4	0.9		
3	挨拶	子供たちが、気持ちのよいあいさつができるよう指導している。	100	80	20	0	0	○教員評価ではAB評価が100%、児童・保護者評価はそれぞれおよそ85%であった。昨年度のA評価と比較すると、教員は66.7%から80%に、保護者は33.6%から37.3%に向上した。教員が良い挨拶を率先垂範し価値づけるとともに、児童も進んで挨拶をしてきたことが伺える。 ▲昨年度と比較すると児童のAB評価が89.9%から85.4%となった。今後も学校と家庭、地域が連携しながら児童の意識を向上させていく必要がある。	
		自分から進んであいさつをしている。	85.7	59.4	26.3	12	2.3		
		お子さんは、家庭や地域であいさつをしている。	84.2	37.3	46.9	14.5	1.3		
4	思いやり	子供たちが、相手を大切にしたい思いやりのある温かい言葉で話せるよう指導している。	100	86.7	13.3	0	0	○教員A評価は一昨年度75%、昨年度81%からさらに向上し、86.7%となったことから、思いやりのある温かい言葉遣いで話せるように指導していることが伺える。 ▲昨年度との比較で、AB評価について見ると保護者は85%から88.6%に向上したが、A評価は28.1%で依然として低いままである。児童間の良好な友達関係を築き、楽しい学校、安全・安心な学校作りのためにも思いやりのある温かい言葉遣いが定着するように粘り強く指導していく必要がある。	・2学期も引き続き、温かい言葉かけに加え、相手を気持ちや立場を考えることなど「思いやり」とは何かについて全校朝会等で考えたり、具体的な行動を示したりする時間を確保し、周知していく。また、日々の生活の中での指導や全校での生活目標の取組を継続的にを行い、ふり返りを充実させ、安全安心な学校づくりを目指していく。 ・各月の心の相談アンケートや個人面談を通して、子どもたちの困り感に寄り添い、見逃さないようにすることは、今後も重点的な取組の一つである。アンケート後の丁寧な聞き取り、事実に基づいた指導、保護者への連絡を引き続き大切にするとともに、家庭と連携しながらすべての子どもたちをフォローのできる体制づくりに行っていく。
		相手を大切にしたい温かい言葉で話している。	92.8	45.7	47.1	6.8	0.4		
		お子さんは、相手を大切にしたい温かい言葉で話している。	88.6	28.1	60.5	11.4	0		
5	安全安心	子供たちが、いじめられたり無視されたりすることなく安心して過ごせるよう指導している。	100	80	20	0	0	○昨年度と比較すると、保護者A評価が49.8%から57.5%と大幅に向上した。また児童A評価も57.5%から70.5%となり、7割の児童がA評価としており、これまで指導により児童が安心して過ごせるような環境ができてきたことが伺える。 ▲保護者のAB評価は、98.7%から94.3%となり、肯定的に捉えられているが、減少している実態もあるため、アンケートや観察、面談を通して、いじめが懸念される案件を見落とさず、丁寧に対応していくことが大切である。	
		いじめられたり無視されたりすることなく安心して過ごしている。	91.4	70.5	20.9	6.4	2.2		
		お子さんは、いじめられたり無視されたりすることなく安心して過ごしている。	94.3	57.5	36.8	3.9	1.8		
6	給食(食育)	子供たちが、感謝の気持ちをもって給食を残さず食べるよう指導している。	100	66.7	33.3	0	0	○教員AB評価は100%、児童AB評価が95%という結果であり、感謝の気持ちを持ち、毎日の給食を残さず食べようと意識して指導してきたことが伺える。 ▲昨年度比較しすると、教員A評価は81%から66.7%と大幅に減少している。給食を残さないための工夫として、量を調整するなどしてきたことで、多く食べる児童とそうでない児童に差が生れている学年もある。児童の実態に合わせて、配膳の仕方や時間の確保など、さらなる工夫をしていく。	
		感謝の気持ちをもって、給食を残さないように食べている。	95.5	70	25.5	2.7	1.8		
		お子さんは、感謝の気持ちをもって食べている。	85.1	39	46.1	13.6	1.3		
7	授業	ねらい（育みたい資質・能力）を明確にし、子供一人一人が「わかった」「できた」を実感できる授業を行っている。	100	73.3	26.7	0	0	○教職員のAB評価は100%という結果から、必要感のある導入や児童がわかったと実感できる授業を意識して行っているといえる。児童評価も90%ということから指導が児童の実態に表れているといえる。 ▲CD評価の児童が9.3%、保護者の評価は12.8%である。基礎基本の定着がないままの児童や前年度の学習が定着しないまま積み重ならずにいる児童が数名いる。家庭学習や持ち帰りのプリントテスト類から保護者は授業の理解度を判断しているともいえる。	教職員は継続して児童が自ら学びに向かえるための手だてを意識した授業を行っていく。教材研究を2学期もしっかりと行い、授業の中では、見取りを必ず行い、記録に残していく。一斉授業の中で、個別の支援や手だてを入れていく。基礎基本の定着を図るために、週2回の朝学習の中で学習時間を確保したり、プリントやテストの直しは必ずさせ、再度チェックするなど間違えをそのままにはさせない。CD評価の児童に寄り添い個に応じた支援をしていく。全校で朝学習時間に基礎基本時間コソコソタイムを設け、実践していく。
		授業はわかりやすい。	90.7	64.8	25.9	7.4	1.9		
		お子さんは、授業はわかりやすいと思っている。	87.2	37.6	49.6	11	1.8		
8	読書(読育)	図書館を活用して、読書活動や読書指導の充実を図っている。	100	40	60	0	0	○教職員のAB評価は100%という結果から、図書を利用した学習活動や、本を借りるよう声をかけるなど読書活動を推進する働きかけは積極的に行われているといえる。 ▲児童のAB評価は71%、保護者のAB評価は64%と出ており、働きかけがあっても実際に借りに行かない、借りても家庭で読まないという実態が伺える。	
		本を借りて、朝読書の時間に進んで本を読んでいる。	71.3	38.4	32.9	21.3	7.4		
		お子さんは、週末読書の日に読書をしている。	64.4	41.6	22.8	18.9	16.7		
9	家庭学習	家庭学習に取り組む習慣が身につくよう指導している。	100	46.7	53.3	0	0	○教職員のAB評価は100%、児童評価も85%という結果であるが保護者は76%となっている。教職員は、家庭学習の習慣が身に付くように指導をしていることがいえる。 ▲教職員のC評価は53%の結果から、指導はしていても家庭学習が定着しない児童が半数いることがわかる。児童のCD評価が15%、保護者のCD評価23.7%の結果からもいえる。	
		家庭で、宿題や自主学習に毎日取り組んでいる。	84.8	53	31.8	10.6	4.6		
		お子さんは、家庭学習に取り組む態度が身についている。	76.3	38.6	37.7	18.4	5.3		
10	人間関係づくり	子供たちが、お互いの良さや違いを認め合い、いろいろな友達と一緒に活動できるよう指導している。	100	73.3	26.7	0	0	○教職員のAB評価が昨年度と同様、100%で維持しており、また、児童のAB評価が93.3%から94.1%、保護者のAB評価が91.9%から95.2%に向上している。学年を超えた縦割り班活動など、多様な友達と関わる機会を設けてきたことが、この結果につながったと考えられる。 ▲児童のD評価が1.6%から2.3%に増加している。引き続き、学級や縦割り班活動において様々な友達と関わる機会を充実させるとともに、活動後の振り返りや価値付けを丁寧に行う必要がある。	
		お互いの良さや違いを認め、いろいろな友達と行事などで一緒に活動している。	94.1	60.9	33.2	3.6	2.3		
		お子さんは、お互いの良さや違いを認め、いろいろな友達と一緒に活動している。	95.2	45.2	50	3.9	0.9		
11	体力向上	子供たちが、1校1プランに基づき、体力を向上できるよう指導している。	100	40	60	0	0	○教職員のAB評価が昨年度と同様、100%で維持しており、家庭や地域で体を動かすことの重要性について、教職員の共通理解が図られていると考えられる。 ▲児童のAB評価が92.0%から90.2%、保護者のAB評価が、86.3%から85.1%と低下している。家庭や地域における運動習慣の定着については、依然として課題が見られる。今後は、家庭や地域で継続的に体を動かすことの大切さを発信し、運動習慣の向上につなげていく必要がある。	・2学期以降も体育委員会の児童が作成した「朝日のびのび体操」を休み時間や家庭でも取り組めるように周知していく。 ・持久走やなわとびなどの運動旬間での児童の様子を記録し、学年便りやtetoru等で発信することで、家庭での声かけの機会をつくっていく。
		体育の授業や休み時間などに体を動かしている。	90.2	67.1	23.1	6.7	3.1		
		お子さんは、家庭や地域で体を動かしている。	85.1	46.1	39	10.5	4.4		
12	地域(ジオ育)	子供たちが、地域への愛着がもてるよう地域の人・もの・ことを活用して、学習を進めている。	100	46.7	53.3	0	0	○保護者AB評価が昨年度の84.6%から88.2%と3.6ポイント高くなっている。 ▲児童のAB評価が昨年度の87.3%から84.6%と2.7ポイント低くなっている。 ▲児童、保護者ともD評価が5.9%、0.4%いる。	・各学年のカリキュラムの中で教科横断的な視点で「ジオ学習」「地域学習」を意識させる声掛けをすると共に、体験学習をした際に、地域の良さについてメタ認知するふり返りをしていく。 ・学校だよりやHPページを通して、学校の取組を引き続き発信していく。
		わたしたちが住んでいる地域について、体験などを通して学習している。	84.6	49.3	35.3	9.5	5.9		
		お子さんは、学習を通して地域への愛着をもっている。	88.2	35.5	52.7	11.4	0.4		
13	業務改善	今の仕事にやりがいや誇りを感じている。	100	60	40	0	0	○やりがいをもって職務に携わっていることがわかる。 ○様々な取り組みに対して挑戦を応援するような職員間の雰囲気が見られる。	
14	業務改善	年次有給休暇等を取りやすい雰囲気がある。	100	80	20	0	0	○早く帰ってもよい雰囲気が職員間にある。 ○やすんDAYの取り組みから、休みやすい雰囲気になっていると考えられる。 ○職員間で、助け合ような雰囲気があり、気軽に休むことができる。	